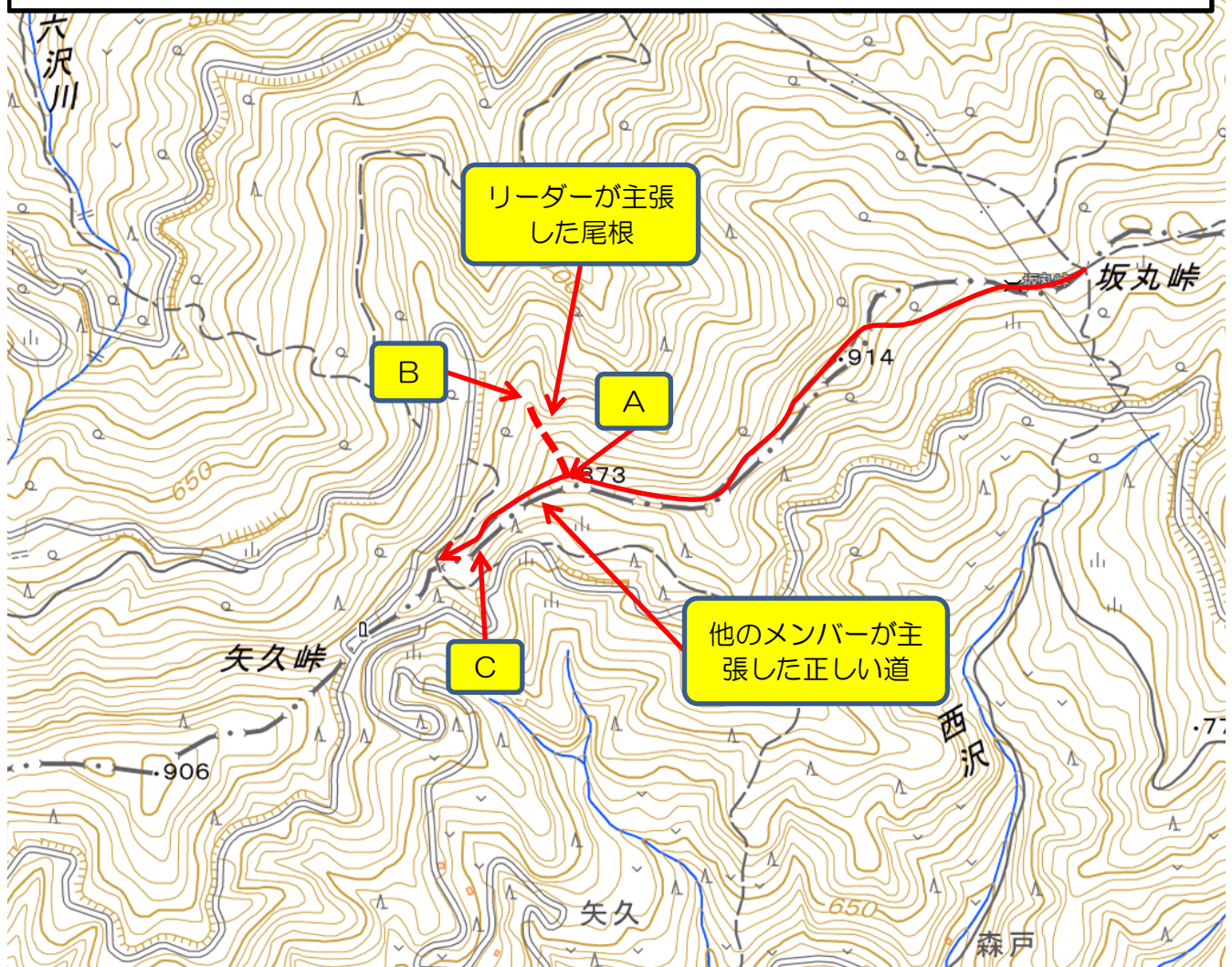


矢久峠道迷い防止(2007年8月)

リーダーが道を外しかけた時、メンバーが「方向が違う」と声をかけた。リーダーが意見を主張するも他のメンバーも意見が違ったためルートを外さずに事なきをえた。



解説

中高年7人のグループで矢久峠に向かう。リーダーがA地点まで来たとき、B尾根に入りかけたのでメンバーが「方向が違います」と声をかけた。リーダーは「以前来たときはこちらの方向に行った」と主張。コンパスと地図を使って説明したが、リーダーは同意してくれなかった。結局、他のメンバー全員がリーダーと意見が違ったので、リーダーも渋々その決定に従うことになった。

その後、C地点でリーダーは「ここだと思った」というから、間違いはリーダーの記憶違いに由来するようだ。何度か歩いているから地図は不要と考える登山者もいることがある。しかし、この事例のように、間違った記憶は当てにならないことが多い。「記憶に頼るだけでは十分ではない」という点でも示唆的である。

以上解説内容は、すべて「村越 真「山岳読図大全」(山と溪谷社)」から抜粋。